

研修レポート 12月

志水 慈子

気づけば2017年もあと数日になりました。メキシコ生活も約5か月。勉強や体調などの面で大変なこともありましたが、順調に研修をさせて頂いております。今回はユカタン地方を訪れたので、ユカタン地方の内容を中心に書きたいと思います。

I ユカタン地方

12月中旬にメキシコシティから飛行機で東へ2時間、世界有数のリゾート地でもあるカンクンが有名なユカタン半島に行ってきました。朝夕でも薄着で出かけられる温暖さは、メキシコシティの気候と大きく異なっていました。ケッペンの気候区分によると熱帯夏季少雨気候になります。余談ですがメキシコシティに帰るときに理由の説明もなく飛行機が5時間余り遅延したのですが、メキシコ人は誰も怒ってなくてその大らかさが衝撃的でした。

II ユカタン半島の生物

写真はチチェン・イツァー（後述の遺跡）の敷地内で発見したハキリアリです。ハキリアリは木に登り新鮮な葉を切り取って巣に持ち帰り菌類を植え付けて育てるという特殊な性質を持っています。私が見た時は木の根元に落ちた葉に3～4匹のアリが集まり、それぞれ頑丈な顎でカリカリと切断し、半円状の葉を切り取ると20m以上離れた巣に持ち帰っていました。アリの唾液と葉の酵素が反応して切れ目が茶色くなっているの



が分かります。巣まで一定間隔で葉っぱを運ぶアリが歩いているので、まるで緑のラインのようになっていました。

ちなみに私が運搬中のアリから葉っぱを拝借するとその奪われたアリはすぐさま近くにいたアリの葉っぱを奪い、私が返した葉っぱにはどのアリも目もくれなかったので、一度顎から離れた葉っぱには関心がないことが分かりました。

左の写真は日光浴するイグアナです。体長は約60cmで、時々首の角度を変えていました。オアハカ州ではイグアナを食べる風習があるそうです。暑い時間は岩場の陰にいるのか、駐車場の近くの岩の間にもなにかの尻尾が見えていました。恐らくイグアナの仲間だと思います。近くでは1mあまりの薄茶の長いヘビもいました。



ラバーボアという種類ではないかと推察しましたが冬は冬眠するので違うようです。植生としては道端にサボテンが自生したり、水辺にはマングローブが茂っていたりしました。やはり熱帯地域では生態が大きく違うと実感しました。



今月のメキシコ料理 ～ユカタン編～

③セビツェ

海に面するユカタン半島ならではの海鮮料理です。白身魚やエビ、貝をトマトやチレで味付けし、最後にレモンをかけるさっぱりとした一品。パクチーを入れることもあり、柔らかい白身魚とぷりっ



としたエビがメキシカンな味付けで頂ける、人気料理です。メキシコシティに暮らしていると新鮮な海産物が買えず、肉に偏っていたので改めて海産物の美味しさを思い出させてくれました。因みにトルティーヤチップスとトルティーヤとチレ（辛いタレ）はなにも言わずともついてきます。

今月のメキシコ観光地 ～遺跡編～

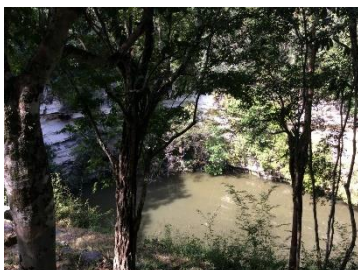
④チツェン・イツァー



「泉のほとり」を意味するチチェンイツァーは、セノーテ（聖なる泉）という泉を中心にマヤ文明が栄え、200年以上にわたってユカタン半島の経済や宗教、芸術の中心であったといわれています。

写真の大神殿は全体でマヤのカレンダーとなっています。四方の段数は91段で $91 \times 4 = 364$ となり、頂上の一段が足されると

365（日）となります。そして春分、秋分にはへびの頭に神殿の影が繋がり羽の形となって現れることでも有名です。



左記の写真が聖なる泉です。ユカタン半島最大の規模で、日照りの時期には生贄として人間が投げ込まれたようで、最近の発掘で遺骨が40体以上見つかったそうです。他にも南米コロンビアやパナマからの渡来品も投げ込まれたといわれています。球戯の試合では勝ったチームの主将が生贄になったり、生贄の臓物を入れる像

があったりと、生贄に纏わる遺跡がたくさんあったことが驚きでした。



⑤テオテナンゴ遺跡

メキシコシティから 66 kmほど離れたトルーカの街のはずれにある大城砦都市です。マトラツィン



カ族が築き、後にアステカ帝国に征服されたとされます。急勾配を上った先に広大な遺跡があり、実は非常に辺鄙な場所で行くまでに心が折れそうになっていましたが、その絶景に一気に疲れが吹き飛びました。西側にはネバドデトルーカ火山という高い山も聳え立っていました。

⑥カリストラワカ遺跡

こちらもトルーカの街から 8 km離れた遺跡です。今も居住しているマトラツィンカ族が 9～15 世紀に建設したといわれています。羽の生えた蛇神のケツアルコアトルがとぐろを巻いている様子をかたどった神殿です。後の時代に他の部族が付け加えるように建設を繰り返したため今のような形になったそうで、複雑な建築が成されていました。今まで訪れたどの遺跡よりも階段が急で、入り口



の警備員が十分に気を付けて、と口を酸っぱくさせて言っていた意味が分かりました。階段も幅が 10 cmほどしかなく、ロッククライミングをしている気分でした。登るには体力と勇気が必要です。

⑦テオティワカン遺跡

ラテンアメリカ最大の都市遺跡、そしてテオティワカン族の人々はどこから来てどうして滅亡して



しまったのが未だに解明されていない謎に満ちた遺跡です。人口は推定 20 万人で、広島県で例えると広島市安佐南区よりもやや少なく、東広島市より 1 万人多いということになり、その繁栄ぶりが簡単に想像されます。この高度な文明では、神官、軍人、商人、職人と階級が分けられ、これによって住む地域も分けられていました。



太陽のピラミッド、月のピラミッド、ケツアルコアトル（蛇神）の神殿で成り立っており、最大の太陽のピラミッドに関しては 10 年の歳月をかけて作られました。石面には赤や緑の色素が残っていて、神々やジャガーなどの動物の様子が描かれていました。帰国する前にぜひまた見に来たいと思いました。

